

令和6年度 第1回 伊豆の国市総合計画審議会 議事録

開催日時	令和6年9月10日（火）午後2時から午後4時まで
開催場所	韮山文化センター（韮山時代劇場）映像ホール
出席した委員	浅井委員、飯田委員、石川委員、稲村委員、今井委員、岩田委員、菊地委員、小泉委員、佐野委員、土屋委員、中野委員、橋本委員、堀江委員、松下委員、室伏委員、谷津委員
欠席した委員	小野委員、鈴木委員、土山委員
市出席者	市長、副市長、企画財政部長、まちづくり政策監、企画課長、企画係長、企画係2名

1 開会

事務局の進行により開催した。

2 市長あいさつ

伊豆の国市では平成17年に誕生して以降、平成19年に第1次総合計画、平成29年に第2次総合計画を策定し、総合的かつ長期的なまちづくりを進めてきた。

第2次総合計画の期間内だけでも、激甚化・頻発化する大雨や新型コロナウイルス感染症の流行、少子高齢化の一層の進行等、厳しい状況が続いている。こうした危機を乗り越えていくためには、協働によるまちづくりを進めていくことがこれまで以上に重要となる。

また、市では、令和7年4月1日に迎える市制施行20周年に合わせて、市民憲章の制定を予定している。まだ素案の状態だが、市民憲章では、市民が多様性を尊重し合いながら、誰もが幸せに暮らせるまちを自らの手でつくることをうたっている。

こういった現状を踏まえ、新たな総合計画の策定に向け、総合計画審議会においては、様々な立場からの専門的な見地や市民目線からご意見をお聞きしたい。

本日はよろしくお願いいたします。

3 総合計画と総合計画審議会について

資料1に基づき、総合計画と総合計画審議会について、事務局より説明を行った。

4 委員自己紹介

5 会長選出

審議会の会長は、伊豆の国市総合計画審議会条例第7条の規定に基づき、委員の互選によることとされていることから、自薦又は他薦を求めたところ、稲村委員（伊豆の国市観光協会）より、小泉委員（静岡産業大学）が推薦された。ほかに自薦・他薦がなく、委員全員の承認を得たことから、小泉委員が会長として選出された。

また、小泉会長の指名により、会長の職務代理は菊地委員（伊豆の国市都市計画審議会）が務めることになった。

6 会長あいさつ

それでは会長ということでご指名いただきましたので、皆さまのご協力をいただきまして進めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

7 議事

伊豆の国市総合計画審議会条例第8条第2項の規定により、小泉会長の進行により、議事を進めた。

(1) 第2次伊豆の国市総合計画の進捗状況（報告）

会長は、第2次総合計画の進捗状況について、事務局へ説明を求めた。

事務局は、資料2に基づき、第2次総合計画の進捗状況として、平成27年度から令和5年度までの主な取組実績や、現在課題となっていること、それらを踏まえた今後の方向性について、説明を行った。

会長は、第2次総合計画の進捗状況について、改善したほうが良い点やほかに挙げられる課題、良かった点などについて、委員に意見を求めた。

※発言は別紙1のとおり

～休憩～

(2) 第3次伊豆の国市総合計画の諮問

伊豆の国市総合計画策定条例第3条の規定により、市長が総合計画審議会に対し、第3次伊豆の国市総合計画の策定にかかる諮問を行った。諮問書は、小泉会長が代表して受け取った。

(3) 第3次伊豆の国市総合計画の策定方針（報告）

会長は、第3次総合計画の策定方針について、事務局へ説明を求めた。

事務局は、資料1に基づき、第3次総合計画の策定方針の概要及びこれまでの取組状況、今後の取組について、説明を行った。

(4) 未来の伊豆の国市について

会長は、第3次総合計画で今後将来像を検討していくにあたり、「未来の伊豆の国市をこういうまちにしていこう」「もっと住みやすいまちにするにはどんなまちにしたら良いか」といった意見やキーワードについて、委員に意見を求めた。

※発言及び意見書による意見は別紙2のとおり

小泉会長は、議事の終了を宣言し、進行を事務局に戻した。

8 その他

今後の予定について、事務局より説明を行った。

9 閉会